徳地町報

発行所 徳地町役場
発行者 坂本諦介
編集者 河村績
印刷所 今澄印刷所

◎食事前の手洗と食后の歯みがき健康の基◎

参議院議員選挙おわる

六七%の投票率

二大政党対立下初の参議院選挙は、割合冷静だったとはいえ、日ごろ、戦争か平和か、改憲か非改憲か、暴力か議会政治か等等両党しのぎを削る選挙戦展開の中を、愈々国民審判の日は遂に来た。

当町は人口一九三三九名にして有権者は男五三〇二名、女五三九六名合計一〇六九八名にして、投票所は合計十九箇所、各投票所共前日より係員によって用意万端怠りなく、愈々投票日を迎えたので気づかわれた天候も晴れて絶好の選挙日和であった。

午后六時投票所閉鎖までの投票総数七、二五八票（全国区はこれより一票少）棄権票数三四四〇票投票率六七、八%好成績とはいえないが、無事に終了した。

引続いて堀中学校に於いて午后八時より開票されたが、その結果地方区有効投票六、九九五票、無効投票二六三票で無効投票の主なものは候補者でない者の氏名を記載したもの二〇三が尤も多かった全国区有効投票六、二一五票、無効投票一、〇四二票無効投票率一四%にして、その内訳は候補者でない者の氏名を記載したもの四六三票（全国区）単に記号符号を記載したもの二一六票、白紙一八八票その他の順にして、その数字を科学的に解計すれば興味深いものがあると同時に将来の指針として諸種の問題が提起せられているといえよう。

（写真は堀投票所の投票風景）

県財政の建てなおしと

私たちの生活はつながる

赤字十億円の原因は

◎赤字になやむ県では、「地方財政再建促進特別措置法」によって財政の建直しにのり出すことになりました。

◎県の赤字は現在十億円、その上このままにしておくと来年には二十億円にもなろうというあぶなくまです。

◎さて赤字の原因は(1)終戦后、行政制度や教育制度が複雑になって県庁職員、警察官や教員の数がふえ給料等の人件費がふえた。

(2)災害復旧や道路、校舎の建設等の事業のために発行した公債が積り積って、毎年元利払いが十億円になった等です。

◎赤字をなくするには、「地財建法」によるのが県民の負担も少く一番早く確実です。そして県税を引上げる必要もありません。

明日のお互のしあわせのために県民皆さまの御理解と御協力をお願い致します。

（県政だよりより）

第七回靖国神社参拝の遺児十名きまる

第七回目の遺児靖国神社参拝は七月二十六日～七月三十一日の六日間に亘って実施される予定ですが、この程町ではこの参拝遺児として次の十名が決定されました。

（括弧内は年令）

賀屋　寿(13)　柚木
高橋妙子(13)　柚木
長尾功一(13)　島地
出穂澄子(15)　島地
徳富洋江(13)　堀
山本雅一(13)　岸見
大野厚志(15)　蜻河内
兼坂良子(16)　串
西畑雄(13)　三谷
金子光政(14)　八坂

夏の健康は食べものから

うっとうしい梅雨がすぎて本格的に夏がきますと私たちの身体はこの梅雨の間にかなり抵抗力が弱っていますので、毎年今ごろから赤痢、疫痢、食中毒、日本脳炎等が多くでる時期ですそこで今年の夏はとくに次のことに注意して、私たちの周囲からこれらの病気をなくして、健康な夏をおくりたいものです。

◎食物は、**ほこり**や**はえ**のつかないよう容器に入れるかおおいをして保管し、取り扱いは**はし**や器具を用い決して汚れた手で直接さわらないようにしましょう。

また買物は清潔な店を選んで買いましょう。

◎生物は特にくさりやすいから、冷蔵庫に入れるか風とおしのよい涼しいところへ保管しましょう。

◎用便後や、食物を取り扱う前とか、食事前には必ず手を洗いましょう。

◎細菌をまきちらす**ねずみ**や**はえ**を駆除しましょう。

◎料理は充分に火をとおし、味は濃い目につけましょう。

◎生水をのまないよう、お湯やお茶を冷しておくようにしましょう。

◎食品製造所や販売店また家庭の台所も清潔で合理的に改善しましょう。

◎暴飲暴食はつつしみましょう。

◎健康状態に注意し、もし下痢や発熱、嘔吐などしたときは、家族や近隣に同じ患者のあるときは一刻も早く医師の診察を受けましょう。

夏にきたえて
元気で仂こう

堀小学校改築工事

十三日竣工式挙行さる

町では老朽危険校舎として堀小学校の改築を決定、入札の結果徳地町島地、KK蔭岡組（蔭岡島一氏）の請負で、旧ろう十二月三十日起工式を行い、本年一月着工しましたが、設計は守沖一級建築士の苦心の設計になる木造モルタル式二階建校舎一棟二九九、二五坪、木造モルタル式平家建講堂九八坪など合計四三一坪の堂々たるもので、総工費一六〇万円を投じ、半歳に亘る日月を費して去る六月二十日頃完成したのであります。

今回町では関係者多数を招き七月十三日午前十一時から堀小学校講堂に於いて、盛大な落成式が挙行されましたが、該工事の竣工は躍進徳地町のシンボルとして、又町中心地に偉容を加えるものといえましょう。

農業特輯

天候と稲作の問題点

肥培管理の上手なやり方

災害は忘れた頃にやってくるといわれますが今年の天候は平年より多少悪いという事を前提として、是から肥培管理を充分に研究して昨年に劣らない増収を期して頑張りましょう。

さて農家の皆様のお話をきいてみますと、本田施肥計画は、全般的に窒素過多の傾向があるようですが、これは昨年の豊作で地力が消耗していると思いこみ、これを化学肥料特に窒素肥料で補うという考のようですが、昨年は今まで利用されなかった窒素がよく分解したために地力の消耗が大きいといわれるから、できるだけ良質の堆肥を沢山施すように心掛け、窒素肥料は平年並とし、今後の天候や発育状況で多少手加減することが安全と思われます。

一面肥料をやり過ぎて減収するより少く施して減収した方が経済的という事も考えられましょう。

昨年は多少窒素が過ぎても収量をあげているので、まだその気持が残っているのではないかと心配されます。

開墾以来の豊作といわれた昨年でも、すっかり倒伏して相当減収している所も各地で沢山見受けましたが、五一六石と多収穫した人たちは絶対倒伏する稲は作っていない。

倒れる位作らないと米はとれないと考えるのは昔の事で、苗田のわら作りを喜んでいるようでは、安定した立派な稲作りとはいえないのではないでしょうか。

窒素過多で軟弱な成育を続けますと、天候不順の今年は、倒伏は勿論病虫害の発生も多くなりますので、この防除には特に気をつけてやりましょう。

現在各地で進行型のいもち病が発生していますので、天候の回復次第共同でセレサン石灰やリオゲンダストを反当り何れも三キロを落水して撒布防除しましょう。

又萎縮病を伝播するツマグロヨコバイと二化メイ虫の防除を兼ねて早急にパラチオン剤反当三キロを共同で防除致しましょう。

今年の穂肥は出穂一ケ月前に堆肥のよいものを使つて昨年の地力消耗を補うように努めましょう。

これからの窒酸肥料は無効分けつを多くするばかりですから使わない方が特策ですから充分御注意願いたいと存じます。

水稲穂肥で

豊かな稔の秋を！

穂肥は大体出穂二五日前に施すものとされています（主稈穂長二糎位の時期）

しかし窒色のあまり濃いのに施しますと、病虫害や無効分株が多くなりかえって減収になることがあります。

作土の上の茎の根元を指でつかんでみますと節ができますからそれをつまんでみてつぶれるうちは駄目で、つぶれなくなってやるのが穂肥のこつです。

穂肥の量は成育状況や葉色の度合で一がいには言えませんが、窒素を硫安に換算して一一二貫位の使用が普通になっています。

しかし穂肥の時期がおそくなりますと、量を少くしていかなければなりません。

燐酸肥料は一般に施していません。

加里肥料も原則として元肥ですが、秋冷地帯や極端な湿水田では加里の流失のおそれがありますので、一部を追肥特に穂肥として施すことも効果のある例もでております。

こうしてよく研究して穂肥を施しますと、穂が大きくなり、稔もよくなりますので、是非実行して使用が普通になっています。

農業経済の現状

打開えの第一歩は？

あらゆる職業が私達人間の生活手段として営まれていることは今更申すまでもない事ですし、人々の生活はそれぞれその所得の範囲内で営まれているのも又普通の状態ですが、一時的には所得外の生活（赤字又は借金）という事もあるのです。

そこで今ところみに農林省山口統計調査事務所の資料によつて、県下農家の経済状態を調べてみますと、次の表は各階層別の平均数字ですので、一々各農家の実情に当てはまるものではありませんが大体の傾向は充分に知ることができるわけです。

表を見ますと、農業総所得から租税その他の公課及び家計費を差引いた農家経済余剰の現金面では階層も黒字になっておりますけれ共総額においては、二町以上を除くと大なり小なり赤字になっておるのが分ります。

ついで第二表をよく御覧下さい。

このような一般的な農家の現実の姿を直視して、今后の農家経営はどうしたらよいか、大いに研究を要する問題が多多あるわけですし、人によってその考え方も異つて来るのが当然でしょうが、極めて抽象的に言つて「農業経営の合理化による農家総所得の増大と日常生活の合理化を図る」にある事は論をまたないと考えられます。

私達は徐々にでも将来の農家経済の改善向上に向つて、科学的に研究して、その合理化と向上を計らない限り将来行づまりを生ずる事がないとは限りますまい。

農家経営の合理化はまづ「荷記の記入から」とよく言われていますが、荷記の記入こそこうした仕事の基になる重要な事柄です。

（この項末完）

（1表）　農家経済の総括

階層 / 科目	5反未満 総額	5反未満 現金	5反～10反 総額	5反～10反 現金	10反～15反 総額	10反～15反 現金	15反～20反 総額	15反～20反 現金	20反以上 総額	20反以上 現金
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
○農家総所得	251.897	182.808	320.205	225.225	340.147	233.230	372.767	288.760	481.098	374.447
○農業所得	58.203	5.216	150.871	78.565	200.995	113.626	281.443	220.168	400.120	305.774
農業純収益	102.036	38.438	264.883	162.668	319.099	192.613	502.467	376.303	622.824	487.844
農業経営費	43.833	33.222	114.012	84.103	118.104	78.987	221.024	156.135	222.704	182.070
○農外所得	193.694	177.592	169.334	146.660	139.152	119.604	91.324	68.592	80.978	68.673
農外収入	200.813	184.560	173.650	150.965	141.270	121.419	93.711	70.960	82.966	70.661
農外支出	7.119	6.968	4.316	4.305	2.118	1.815	2.387	2.368	1.988	1.988
○租税公課等	20.748	20.631	24.726	25.243	30.431	28.991	41.831	64.280	61.109	60.502
○家計費	234.810	150.576	299.796	178.363	328.158	189.446	373.847	217.222	399.670	278.123
○農家経済余剰	△3.661	11.601	△43.137	21.619	△18.442	14.793	△42.911	7.258	20.319	35.822

註　農家総所得＝農業所得＋農外所得　　農業所得＝農業純収入－農業経営費
農外所得＝農外収入－農外支出　　農家経済余剰＝農家総所得－租税公課等－家計費

（表2）

階層 / 科目	5反未満	5反～10反	10反～15反	15反～20反	20反以上
A（農業所得）	58.203	150.871	200.995	281.443	400.120
B（家計費）	234.810	299.796	328.158	373.847	399.670
C（租税公課等）	20.748	24.726	30.431	41.831	61.109
D（A－(B＋C)）	△197.355	△173.651	△157.594	△134.235	△60.659
E（農外所得）	193.694	169.334	139.152	91.324	80.978
E － D	△3.661	△4.317	△18.469	△42.911	20.319

除草剤

二四Dの使い方

炎天下四つばいになつての除草作業の苦しさから解放され、その上労働の生産性を高める上からも薬剤利用の除草作業は誠に意義深いものと考えられます。

最近除草薬二四Dの使用が盛になるに伴つて、失敗談もかなり多いようですから、この使い方を述べてみましょう。

使用時期

稲の成育によつて定まりますが、大体有効分株期が終つて、幼穂形成期五日前までの間に用います。

暦の上では大体七月下旬になります。

使用量

酸量で四〇瓦～六〇瓦（反当一箱又は一袋）です。

薬剤の種類

乾田状態で使用する二四Dと、水田状態で使用する水中二四Dとがあります。

◉水中二四D水和剤は二四Dエチルエステルと吸着剤等を混合した粉末で水にとけ難いので、容器などに附着する量が多いので、昨年秋から今年春にかけてその容器を上刈、そのまま使つて畑作物を枯死させた例がかなり沢山あります。

水中二四Dの使用上の注意

◉所要の薬剤を布等に包み、四～五斗の水の中で充分もみ出しよくかきまわした後使用しますが、撒布器の中でもよくかきませながら使います。

◉除草剤を撒布したら二昼夜位水の出入をとめておきます。

◉この薬は揮発性ですから、種苗肥料又は他の農薬とは別の冷暗場所に貯蔵することが必要です。

◉撒布器具は専用のものを使用しましょう。

噴霧器を使用すると失敗が多いので注意しましょう。

◉薬をとく容器もなるべく別の容器を用い、やむを得ず使用した場合は石灰水又は石けん水に浸しておいて念入りによく洗う事が大切です。

地区民待望の真名子橋落成式行わる

昭和二十六年七月十日佐波川流域一帯をおそつた大洪水は、一瞬にして尊い人命と田地や家屋など甚大な被害をもたらし私達の胸に永久に忘れがたい悲しい記憶を止めましたがあれから五年の歳月が流れその間沿岸旧各村のたゆまない努力と住民皆さんの復旧えの意慾と努力は着々と実を結びつつあります。

その後の佐波川沿岸を俯かんすればその目ざましい復旧ぶりは落くばかりですが、七月十一日盛大な落成式を挙行せられた八坂地区真名子橋も同じく二十六年災害で従来の木橋が流失后関係地元民皆さまの熱烈な要望が漸く実現されたわけで誠に同慶の至りです。

全橋は、総工事費二三五万円で株式会社藤岡組（藤岡為一氏）の施工になる、延長七〇米、巾員二米の潜水橋にして、本年二月二十五日着工、五月十六日竣工したものですが、農繁期の関係で落成式のみ延期されていたものであります

夏の造林地

手入れ運動

7月16日より一ケ月

よい苗木を植えただけでは、よい木を育てることはできません。下刈、手入を行うなど年月をかけて撫育してやる必要があります。

七、八月は一年中で一番雑草の繁茂する時期です。

多くの経費や労力を使つて植えた山ですから、徹底的に手入しましょう。

町行林や学校林等は青年団、婦人会、部落会、学校等総出して、みんなが協力してやつたら如何でしょう。

県下一斉に行われるこの運動期間中に少くとも次の事柄に注意して手ぬかりなくやりましょう。

◉植付后5～6年は造林地の完全な下刈りの実施

◉幼壮令林の疎切り、除伐、間伐の実行

◉薪炭林、竹林、特用樹林の手入れ（不良竹木の整理 除木 除草）

◉観光地等の樹木の手入

◉赤松天然林の下刈の実行

◉防火線の切開ならび手入れ

社会の窓

近頃はどんな山の中でも沢山のお金をかけて立派な台所を作つている人が多い。

又台所改善を志す多くの人々は何時も経費の問題で行き悩む事が多いと聞く。

金が台所改善を支配する。

生活の合理化、台所改善等々とは一体何のものだろうか。

或る日どんな話をきかされた。

石油箱を重ねてその上でまな板を使つたら、能率的で都合がよかつたこと、今度は不用になつた古机を調理台に使つているという。

ほんの一寸の工夫が成果をあげた一例である。

何も出来ない無理算段をしてまつくる事のみが台所改善や生活合理化でもなさそうな気がする。

編集后記

本号をもつて三回にわたり農家の皆様の要望に副い、農業経営上の諸問題について特積記事を載せましたが、昨年につぐ豊収を望んでいたが、昨年につぐ豊収を望み日夜肝たんを砕いておられる農家の好個の参考資料にせられんことを望みます。

暑中御見舞申し上げます

徳地町役場

町長　伊藤三樹三
助役　坂本諦介
助役　長嶺政男
収入役　桑原嘉夫
総務課長　世木操
経済課長　三戸政男
税務課長　高橋吉良
施設課長　津田文一
厚生課長　米田真治
八坂支所長　山本重政
島地支所長　松原敏雄
串支所長　岸本孫一
柚野支所長　伊藤利幸

徳地町議会

議長　粟屋且己
副議長　藤岡島一
議員（順序不同）
中谷吾作　宮田堯友
田中勇　井上清子
片山庄八　田中保
岡崎光雄　篠原誉
藤井信一　斉藤時一
久楽利数　藤村一
有近利一　伊藤淑久
山本慶祐　埜山実
中村寿人　村田三郎
河村小一　山根幸雄
吉賀孝一　斉藤為義
亀田建治　宮正末吉
山田正元　大判実一
平川雅雄

外職員一同